

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.18 2009.2.25

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



福まち通信

60回目の雪まつり終了



今年も陸上自衛隊や市民ボランティアの経験と技術を生かした大小の雪像や、今年初めて第二会場となった「つどーむ」の新型滑り台「わくわくスライダー」に人気が集まり、11日に盛会裏に終了しました。

しかし、景気悪化や悪天候などの影響を受けて観光客が伸び悩み、入場者数は昨年を下回ったと、実行委員会は発表しています。

除雪ボランティア活躍

2月7日、恒例の介護予防センター主催による除雪ボランティア活動が行われました。回覧板やチラシなどの配布、それに民生委員さんたちによる呼びかけで除雪希望の世帯を募集し、またボランティアさんへの呼びかけを行っています。今年は積雪量の関係で希望世帯が少なく、今回だけの実施になりましたが、北星学園大学の社会福祉学部の学生さんや一般社会人の青年たちが参加してくれました。うずたかく積もった雪が見る見るうちに運ばれ、この家の老いた姉妹に感謝されていました。



平成20年度白石区福まち活動者研修会

1月30日、白石区社会福祉協議会主催の「福まち活動者研修会」が、白石区民センターで開催されました。

当日の参加者は26名で、このうち菊水地区からは福まちセンター井東事務局長ほか3名が出席しました。

研修の内容は、前半に講義、後半はグループワークが行われました。講義の内容は地域福祉活動の実践例、車椅子の取り扱い方法、知っておくと便利な介護についての実技などでした。

グループワークでは、出席者が四つのグループに分かれ、ダンボールでできた仮称「白石学さん」(最近骨折と捻挫をしてしまった高齢独居者)は、どのような生活



上の困難を抱えており、地域でどのような支援が考えられるかについて話し合いが行われました。

話し合いの中であげられたひとつの事柄、たとえば食事についてだけでも、食材の買い物から食器の洗物までのさまざまな場面で困難が発生することが挙げられ、それに対する支援の重要性が再認識されました。

講師の深瀬啓子さんは、NPO法人「ワーカーズ・ほっけ」の事務局長で、併せて同法人の介護保険部門のケア・マネージャーとして実践活動に従事しておられます。
(武山白石区社協職員)



地域健康づくり教室開催

2月6日に菊水地区会館で、菊水地区健康づくり実践会と菊水町内会連絡協議会・女性部の主催による地域健康づくり教室「あきらめないで!腰・膝の痛み」が開催されました。主催者が地域の皆さんに健康な生活を送ってもらおうと企画実施したものです。



この日は、勤医協札幌病院整形外科科長の猫塚先生を講師にお迎えし、骨粗しょう症の予防や転倒予防についての講話が行われました。

骨粗しょう症を始め腰痛や膝関節痛の病態と治療法についての説明があると、会場一杯に詰め掛けた約70名の参加者は、熱心にメモを取りながらスクリーンに映し出されるスライドに見入っていました。



次の転倒予防に関する講話は、転ばないための歩き方や、上手な靴の選び方などについて学ぶものでした。講師のユーモアに溢れた軽妙な語り口に引き込まれ、参加者は時の経つのを忘れて聞き入っていました。高齢者にとって転倒は、時に骨折や捻挫という障害を負うことになり、寝たきりの状態になる引き金ともなりかねません。介護予防の見地から各自が気をつけておかなければならないことの一つです。

(中田町セン所長)

白石区子育て支援ネットワーク会議開催

2月18日(水)に、白石区子育て支援推進ネットワーク会議が、白石区民センターで開催されました。これは、白石区内で子育てサロンに取り組んでいる方々などが集まり、子育て支援活動の情報共有化と連携強化を図ることを目的に、白石区健康・子ども課が主催しているも



白石区長の挨拶

ので、当日は100人近くの関係者が集まりました。

はじめに、各地区における活動の報告が区役所職員からありました。菊水地区からは、主任児童委員が中心になって活動している「どんぐりころころ」と、上白石小学校を会場にして活動している「ぷりんぷりん」と、菊水ビルで開催している「ペンギンクラブ」の活動が紹介されました。

その後、白石区の館 保健担当部長から「乳幼児健診から見える子育て・親育ち」と題した講演がありました。札幌市では、4か月、10か月、1歳6か月、3歳の時に乳幼児健診を行っていますが、この検診は、子どもの健康状態をチェックして病気や障がいの早期発見をするだけではなく、親の育児状況を確認して、必要に応じて相談や支援を行い、親の育児力を向上させることも重要な目的のひとつです。アンケート調査を通じて育児のストレスや悩みを聞き出し、虐待の可能性のあるものについては、予防に向けた支援を積極的に行っているそうです。

最近の若いお母さんたちには、育児に対する不安感、不満感、負担感(専門家の間では、「育児の3F」といっているそうです)があり、これが強くなると、虐待につながっていく可能性が高いとのことでした。

そうしたお母さんたちの、育児ストレスをやわらげる手段のひとつとして、子育てサロンがあります。乳幼児健診ではお母さんたちから色々な話を聞くのですが、「子育てサロンに行くようになってから、同じ子育て中



館保健担当部長の講話



の友達ができて、育児ストレスが大幅に減った」といった声が数多く聞かれます。そうした意味からも、子育てサロンの役割の重要性はますます高まってきていると言えます。(中田)

「しろいし子育てガイド」 ができました

白石区では、子育て真っ最中のパパとママが作った情報誌「しろいし子育てガイド」を発行しています。昨年の10月に「いっしょにお出かけ」編が発行され、子育て中のお母さんたちに好評を博しています。今年の3月には、子育てガイドの第2弾「まいにちのくらし」編と、親子遊びのDVDを発行する予定ですので、楽しみにしててください。

「しろいし子育てガイド」は、白石区役所のほか菊水まちづくりセンターにも置いてあります。

菊水まちセン 菊水7条2丁目 電話011-811-9445



地域包括支援センターが移転しました

菊水を担当する白石区第2地域包括支援センターが、東札幌3条3丁目7-25に新築したシヴァビル5階に移転しました。電話は011-837-6800

こんなとき、ご相談ください。

【高齢者本人・ご家族から】

●例えば…

介護保険を申請したら、要支援1、2の結果が出たのだけれど、どこに相談したらいいのかな？



介護保険を申請する程ではないけれど、最近外出の機会が減って、足腰が弱ってきたような気がする。

最近、物忘れが多くなってきた。鍋を焦がすこともあるので、心配!

一人暮らしなのに、最近お金の管理がうまくできなくなってきた。

↓
地域包括支援センターにご連絡ください。

職員が電話または自宅を訪問して、どのような支援が必要かを聞き、介護保険やその他の必要なサービスや機関、制度の利用の調整を行う等、日常生活のご相談に応じます。必要に応じて、介護保険の申請などを行い、介護が必要な状態になることを予防する支援も行います。

また、権利擁護に関する支援が必要な場合は、地域権利擁護事業や成年後見制度の利用に向けて、支援を行います。

【保健・福祉関係者等から】



ご近所のAさん、介護が必要になってきたようだけれど、専門機関に相談に乗ってもらったほうがいいんじゃないかしら。

Bさん、ご家族との関係で悩んでいるみたい。たまに不審なアザがあることもあるわ。

地域包括支援センターでは、その方やご家族がどのような支援を必要としているのか、またどのような生活を送りたいと希望しているのか、ご相談しながら、支援内容を検討していきます。

また、虐待が疑われる場合については、行政と連携を図りながら支援を行います。

編集後記

私事ですが、2月に入ってから腰椎ヘルニアに悩んでいます。十分な取材活動もできず、休刊も止むなしかと思ったときもありました。しかし、捨てる神あれば救いの神もいて、原稿を提供してくださる方がいました。そのおかげで今月号も無事予定通りお届けすることができたのです。50年福祉の道を歩いてきて、人の痛みを知る人間になろうと努力してきましたが、人の痛みどころか、自分の痛みに悩むことになってしまい、周りの人に私の痛みを気遣わせてしまいました。今度は私が他人の痛みを感じることでお返ししようと思っています。(枝元編集員)